

仲村 学園委員委員長としての内閣は八分過半のV行動がどのような事態を惹起するか予断されはすであるが、小山 入社の意志があったか、またその姿勢、時期等について、正しいべきだとの意見があった。

大谷 派閥対立があるという点を認識した上で態度を決めるべき。新野 学園、特に学園新聞社は民主化が欠けている。そのような運営に問題がある。八まずこの点を批判した上でV次に内閣の行動が、新聞社の民主化に役立つかどうかを批判すべき。どちらの学生もケンカランという形での態度はとれない。

大谷 暴力反対だけでは通さない。三派にも彼らなりの正当性がある。その辺りで大学の態度を明確にすべき。中心的に討議すべき課題は何か、はっきりさせよ。

⑫ 16教職員声明

第六回学園教職員委員会において、大学当局を反暴力学園キャンパスにまきこむことに成功した五者共同会議は、十六日を契機に大々的なあらゆる情宣手段を使った反暴力学園キャンパスを展開する。「不法占拠がなかったことは十四日の学園騒ぎにおいて大学当局も認めている」という幼稚な一語学友会執行部の事実の歪曲のピラを始めて、民青系のサークルを含む連年の機関が、反暴力学園の大合唱を唱和する。ここに再登する執行委員会アピールと題した教職員組合のピラ(いわゆる12・16教職員声明)「暴力と学園騒ぎで我々の入社阻止はできない」と題した新聞社入社希望者声明「立命学園新聞社14日付号外の、不当なデマ宣伝を告発する」と題した一語学友会執行部声明は、「16日の『大合唱』の内容を代表的に依えるものである。非暴力としてなお、維持されていた山口定義委員長は、この声明とともにはっきりと自分の立っている位置をおきらかにした。

【資料】⑦

学園から暴力を遠ざけ 民主主義を断固として守ろう
12・16 立命館教職員

組合員の皆さん、
執行委員会は12月14日の学園における一部学生による暴力行動に対し、強く抗議するとともに、全組合員が事態の本質を正しくみえ、団結と統一をかため、あくまで反動勢力の大学破壊に反対し、大学の自治を擁護する固いにたちあがる決意をかためられるよう訴えます。

13日、14日、立命の歴史にない暴力行為が、学園内に発生している。執行委員会は(1)この事態に便乗した悪勢力の介入を阻止すること、(2)全学生八代表による話し合いによる解決の場所の保障の三点を目標に行動し、全学の教職員が結集して立ちあがれば解決の道が開かれるという教訓を得た。しかるに、14日の事態とは、質的に異なっている。すなわち、清心館前の学友会の集会に対しコン棒、石による暴力行動を阻止すべく行動している教職員に対しては、角材が行使され、負傷者を出す事態をおこした。このような事態の中で、執行委員会は、

(1)大学に対して、学園内において以上のような組織的暴力行為がおこなわれた事に対し、抗議すべきである。角材の学園内もちこみについては、5・30騒動一教材は学園にとって無用のものである一にもとずいて、明確に態度を表明すべきである。

(2)われわれ教職員は、学園内の暴力行為を阻止する決意を表明する。
(3)われわれは教育、研究の場で憲法と教育基本法にもとづく教育、研究の発展と暴力行為は、学園の民主化にとって有害、無用のものである立場での活動を徹底しておこなう。

(4)大学は至急に今回の事実経過を明らかにすべきである。
(5)「全学共同会議」準備会について、提起されている教学上の問題は受けとめていくが、正式に組織されている学生の自治組織に対抗し、暴力で事態を解決しようとする方針をとる組織を認めることは、立命でさきあげた民主主義の破壊であり、正規の機関として承認すべきではない。

(6)われわれは、このような情勢のもと、六者共同を日常的に強化し、そのなかで、正しく運動を発展させるための相互批判を強化し学園の民主化と大学の自治を守る責任を果す。

(7)現時点で、大学の自治を擁護できるか否かは、角材等による暴力行動に抗議し、それを許さない態度をおきらかにできるか否かにかかっている。

組合員の皆さん、以上が緊急事態のなかで、執行委員会が明確にした点です。

学園において民主主義を徹底的に発展させるために、民主主義を破壊し、学園を破壊する暴力は断固として阻止する立場を堅持し、執行委員会のもと、かたく団結して行動されるよう、再び訴えるものです。

(全文)

暴力と学園騒ぎで我々の入社阻止はできない
一二月一四日新聞社入社希望者代表内藤ピラ

一昨日(土曜日)新聞社員を中心とする暴力学生分子達は、我々が新聞社BOXを「占拠」しているというデッチ上げのもとに、又もやヘルメットに旗パイプという姿で一語学友会が主催する清心館前の「新聞社問題の真相究明、暴力学生糾弾」の全学集会におそいかり、四〇名の学生、教職員に負傷をおわせた。

彼らは不審日の夕方、金曜日の未明と新聞社BOX、存16に警報を加え、金曜日の昼三時過ぎにはヘルメットに角材という姿で存心強全体に攻撃を加え、中にいた我々を含めた学生に農薬用バルサンを投げつけ、石油や火をつけたペンジンをなげる、消火器をかけ、消火栓から放水する、石を投げ、角材、旗パイプでなぐりかけるといふ暴挙を行った。

これらの暴力はただ単に暴力と呼べるものではなく、彼ら暴力学生が学園の破壊を行っていることを事実でもて示している。彼ら是一体なぜこのようなことをするのか。我々9名はただ新聞社に入社したいという希望をもち、申し込みに行っただけである。そして彼らが入社を拒否したためにその理由をたえず新聞社の応接室で話し合っていただけである。そしてその後、新聞社員が暴撃した暴力学生と共に窓から逃走してからは新聞社応接室で、社員が戻って来て話し合いが再開されるのを待って居ただけである。にもかからず彼らは金曜日、土曜日と一語学友会が新聞社BOXを「占拠」しているというデッチ上げの宣伝を断続的に行なった。我々が金、土曜と新聞社BOXを占拠したという事実など全くないことは全ての人が認めており、我々も認めている。我々は暴力をひきおこした暴力学生を今こそ学園から放逐すること、そして新聞社一派はただちに平和と民主主義の本学園から退学するよう要求する。全ての学友のみならず、暴力と学園破壊を行う新聞社一派を糾弾し、学園からの退学を追求しようではありませんか。

(一語稿)